

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で 2013年1-8月に産卵・孵化したアカウミガメ

Shin KUBOTA : Egg-laying and hatching of loggerhead turtle on “Kitahama” beach of the Seto Marine Laboratory, Kyoto University, Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan during the period from January to August, 2013

久保田 信

白浜半島先端にある京都大学瀬戸臨海実験所の北側約400mの通称“北浜”に、1968年から2012年までの過去44年の間にアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイが漂着した中で、1989年以降、アカウミガメのみの産卵が2003年に1例と2012年に2例見られただけであった（田名瀬, 1997; 久保田, 2006; 久保田・田名瀬, 2012, 2013）。今回、2013年1-8月にかけての産卵状況の継続調査で子亀のはい跡と卵を発見したので報告する。

子亀のはい跡

2013年8月14日、京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”の船着き場の東側で子亀が海へ向かって移動した5つのはい跡を発見した。その内の4つは新鮮であったが、残りの一つは古いものであった。5つとも一つの産卵巣からはい出てきたもので、“北浜”に設置された石垣のすぐ手前、即ち波打際から最も遠い箇所での産卵であった。8月15日から8月22日朝まで毎日、早朝と日の入り直前の2回、はい跡の増加数を調べた。その結果は、15日朝に1つ、16日朝に1つ、17日の朝に3つの新しいはい跡があり、これら5つとも子亀が夜間に巣から出てきたものだった。従って、8月中旬以降の1週間余りで10個体ほどの子亀が誕生したことになる。なお、その後1週間をあけて8月31日早朝に調査を実施したが、子亀のはい跡はついていなかった。ウミガメの孵化には約2ヵ月間かかるので6月中旬頃に産卵があったと推察されるが、丁度その頃に地元の

知人から産卵との連絡を受けており、この詳細は不明だが、それが今回のものかもしれない。

卵

2013年8月21日早朝、台風による高波で“北浜”全体の砂が相当量移動し、“北浜”の船着き場の西側の満潮線に12個のウミガメ卵が漂着していた。それらの7個は子亀として孵化しないまま殻中でどろどろに腐っており、残りの5個は殻の破れ具合が激しく、無事に孵化したかどうかは不明なものであった（図1）。



図1 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に漂着したアカウミガメの卵（2013年8月21日）

以上の今回の観察結果とこれまでの長年の結果をあわせても“北浜”での子亀の孵化数は多くはなく、相当数が孵化せずに死亡すると思われる。

引用文献

- 久保田 信．2006：“宝の海から 白浜で出逢った生き物たち”．233 pp．紀伊民報，田辺市．
- ・田名瀬英朋：2012．和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所北浜に最近9年間（2003年—2012年）に漂着したウミガメ（爬虫類）．南紀生物，54(1)，17-18．
- ・ ——— ．2013：和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で2012年に産卵したアカウミガメ．南紀生物，55(1)．
- 田名瀬英朋．1997：白浜町（和歌山県）近郊に漂着・混入・迷入したウミガメ類．瀬戸臨海実験所年報，10，23-26．
- （〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459）
京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所